



日本骨髄バンクの現状（平成 28 年 1 月末現在）

	12 月	1 月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,083	2,431	457,384	659,388
患者登録者数	266	239	3,143	47,076
移植例数	89	93	—	19,102

■1 月年代別ドナー登録者数（現在数）

10 代	2,779 人
20 代	70,200 人
30 代	142,136 人
40 代	189,733 人
50 代	52,536 人

■1 月の 20 歳未満の登録者 276 人

■1 月の区分別ドナー登録者数：献血ルーム／682 人、献血併行型集団登録会／1,690 人、集団登録会／23 人
その他／36 人

■1 月末までの末梢血幹細胞移植 (PBSCT) 累計数：143 件

注) 数値は速報値のため訂正されることがあります。

1 財政安定化ワーキンググループ中間答申書を公開

日本骨髄バンクは寄付金減少と移植件数減による医療保険財源収入の減収により平成 26 年度決算で 1 億円を超す経常赤字を計上し、平成 27 年度も財政難が続いております。このため昨年 7 月に「財政安定化ワーキンググループ」を立ち上げて対策を議論しました。このほどその中間答申書がまとまりましたのでホームページ上で公開します。（<http://www.jmdp.or.jp/information/>）

特に患者負担金の検査料について、これまで患者負担を軽減するために本法人が肩代わりしていた検査料実費分を患者さんに負担していただくべきとの方針が示されました。

2 期間短縮に向けた拠点病院と骨髄バンクの連携強化

造血幹細胞移植推進拠点病院（以下、拠点病院）は、平成 26 年度までに認定された都立駒込病院、名古屋第一赤十字病院、大阪市立大学病院、東北大学病院、東海大学病院に加え、昨年 8 月に北海道大学病院、岡山大学病院、愛媛県立中央病院、九州大学病院の 4 施設が認定され、全国 9 施設となりました。

拠点病院連絡会議が 1 月 25 日（月）に厚生労働省で開催され、コーディネート期間短縮のために拠点病院と骨髄バンク地区事務局との連携強化が重要であるという意見が出ました。骨髄バンクでは、これらの意見を踏まえて、コーディネート期間短縮に積極的に取り組んでまいります。

3 非血縁者間骨髄移植診療科の認定について

以下の施設が非血縁者間骨髄移植診療科として認定されました。

- ・採取施設（既に認定済み）
- ・移植診療科
- 鳥取県立中央病院
- 血液内科

4 千葉県、埼玉県、山形県の全高等学校で卒業生チラシ配布

この春に高校を卒業する卒業生や大学・短大・専門学校等への入学生を対象に、卒業式や入学式で配布する骨髄バンクのチラシを作成しました。今年は千葉県、埼玉県、山形県の 3 県の全高校でチラシを配布することとなり、これを含めて全国で約 850 校、22 万枚を配布する予定です。これから新しい人生の一步を踏み出す 18 歳の世代に骨髄バンク事業を理解していただき、ドナー登録に結びつくことを期待します。

5 修学旅行生対象に講演会を実施

本年 1 月 16 日（土）、修学旅行中の兵庫県立龍野北高等学校看護科 2 年生の 40 名が日本骨髄バンクの講演会に参加しました。講演会では、ドナー経験者の種麻子さんが、絵本「春ちゃんは元気です」を朗読しました。朗読後、絵本原作者の松田のぶおさんと春ちゃんの弟の陽ちゃんが登場し、松田さんから未来の看護師さんに向けてメッセージが贈られました。参加者からは「骨髄移植を経験したご家族の話やドナー提供者のお話しが印象に残っており、命の尊さを感じました」などの感想をいただきました。

今後、このような修学旅行生を対象にした講演会を積極的に行います。講演会に関するお問い合わせは、広報渉外部（03-5280-8111）までご連絡ください。

6 栃木県で日本赤十字社の職員によるドナー登録受付を開始

栃木県赤十字血液センターは、移動献血会場における日本赤十字社の職員によるドナー登録受付を平成 27 年 11 月から開始しました。栃木県は骨髄バンクの説明員が参加する献血併行型登録会を数多く開催し、全国でも上位の登録者数となっています。日本赤十字社の職員が移動献血会場でのドナー登録を受け付けるにあたり、同血液センターでは職員を対象にした研修を行いました。さらに全ての移動献血会場にはドナー登録に必要な採血管・検体受渡伝票を用意しています。

今後、他の都道府県の血液センターでも同様の取り組みがされることを期待します。

7 巨人軍宮崎キャンプで骨髄バンク支援 PR

読売巨人軍の宮崎キャンプが行われている宮崎県総合運動公園（宮崎市）で、2 月 6 日（土）・7 日（日）に骨髄バンクの PR とドナー登録会を行い、2 日間で 24 名の方にドナー登録いただきました。

読売巨人軍には平成 18 年以来支援いただいております。宮崎では 10 年ぶりのイベントでした。宮崎サンシャインステージでは、骨髄移植を受けて元気になった豊永由希恵さんと骨髄バンク普及大使の佐々原聖子さんが骨髄バンクを PR しました。

8 高知黒潮ライオンズクラブが結成 55 周年で骨髄バンクに多数の機器を寄贈

高知黒潮ライオンズクラブ結成 55 周年記念式典が 2 月 7 日（日）に高知市の三翠園において行われ、尾崎高知県知事や岡崎高知市長をはじめ、ライオンズクラブ関係者など 400 名が参加しました。この 55 周年記念事業として、テレビやプロジェクター、パソコンなど多数の機器を当法人に寄贈いただきました。

高知黒潮ライオンズクラブは、昨年 6 月に民間で初のドナー助成基金を設立し、半年で 4 名のドナーの方に助成を行いました。同クラブの社会奉仕活動の一つとして行っている献血や骨髄バンクのドナー登録会では特に若年者の登録に力を入れ、成果を上げています。

また、式典中の来賓祝辞やパンフレットの中でも骨髄バンクについて紹介していただき、来場者に広く骨髄バンクの PR をしていただきました。



9 当法人の会議等開催予定

◆会議の傍聴をご希望の方は、事前に当法人総務部までお申し込みください。

会議名	公開・非公開	開催予定
業務執行会議	公開・一部非公開	2月16日（火）17：30～廣瀬第2ビル地下会議室
ドナー安全委員会	非公開	2月20日（土）12：30～廣瀬第2ビル地下会議室
通常理事会	公開・一部非公開	3月14日（月）17：30～廣瀬第2ビル地下会議室
倫理委員会	公開・一部非公開	3月20日（日）13：00～廣瀬第2ビル7階会議室

コーディネーター関係者のコーナー

以下は、医師およびコーディネーターの皆さまを対象としています。

10 輸注開始後に骨髄液バッグ内で溶血が確認された事例について（第二報） ＜採取・移植施設の医師の方へ＞

過日、移植施設から骨髄液の溶血事例が報告され、安全情報(2015年10月30日付)を発出しました。当法人 医療委員会においてその取り扱いについて審議し、骨髄液の溶血防止の観点から一時保管等について第二報を発出します。詳細は、別紙「輸注開始後に骨髄液バッグ内で溶血が確認された事例について（第二報）」をご参照ください。当法人ホームページ＞医師の方へ＞医師宛通知文でもご覧いただけます。

11 骨髄液の血漿除去処理における遠心分離の際に骨髄バッグを破損した事例について （安全情報）＜移植施設の医師の方へ＞

血漿除去のために骨髄液を4つのバッグに分注して遠心分離を行ったところ、4つのバッグのうち1つが破損した事例が発生しました。

施設からの報告によると、遠心分離時、重量バランスのため、骨髄バッグと一緒にプラスチックコネクタがついた状態の空の分離バッグを入れたところ、プラスチックコネクタの鋭利な部分が骨髄バッグに当たり、破損した可能性が考えられます。詳細は別添「骨髄液の血漿除去処理における遠心分離の際に骨髄バッグを破損した事例について」をご参照ください。当法人ホームページ＞医師の方へ＞医師宛通知文でもご覧いただけます。

12 ドナーリンパ球輸注（DLI）が困難となった場合の対応について（お願い） ＜移植施設の医師の方へ＞

ドナーからのリンパ球採取後に移植施設から「患者の病状で本日（Day0）は輸注できない」と相談があり、審査の上、ドナーリンパ球を全量凍結した事例（*）が複数発生しました。

（* DLIであっても、骨髄液/PBSCと同様に初回輸注せずに全量を凍結することは認めていません。）

いずれの事例も、ドナーからの採取終了後の連絡でしたが、輸注困難な状況の連絡がドナーの採取前であれば、一旦、採取を中止し、採取日程を再調整する場合があります。

先生方におかれましては、**輸注が困難となった場合は、それが分かった時点で速やかに、移植調整部にご一報くださいますようお願いいたします。**

**13 ドナーリンパ球輸注（DLI）の申請について（事務連絡）〈移植施設の医師の方へ〉**

DLI 申請に関して、今後「成人 T 細胞性白血病（ATL）の再発」は、AML の再発または悪性リンパ腫の再発と同様に医療委員会の審査は不要となりました。また、申請書の一部変更を行いましたので、当法人ホームページから最新の申請書をダウンロードしてお使いください。（当法人ホームページ〉医師の方へ〉患者主治医の方へ〉各種申請書〉DLI 申請書・同意書）

14 移植調整部への電話のかけ間違いにご注意ください〈医師の方へ〉

お電話の際、数字の押し間違いや短縮番号の登録間違いにより、一般のご家庭に発信する事象が複数確認され、ご迷惑をおかけしております。今一度登録番号をご確認ください。

移植調整部（医師専用コーディネーターライン） TEL 03-5280-4771（平日 9 時～17 時半）

上記時間以外（ホットライン） TEL 090-3478-6020

15 試料を利用した研究申請の審査体制変更について〈医師の方へ〉

患者さんやドナーの方々のデータや試料を利用した移植成績向上を目的とする研究申請について、これまで当法人のデータ・試料管理委員会で審査を行ってきましたが、試料を利用した研究申請については、一般社団法人日本造血細胞移植データセンター（JDCHCT）造血細胞移植登録一元管理委員会が本年 2 月から審査を行うことになりました。

ただし、移植登録一元管理プログラム（TRUMP）データ以外の当法人が所有するデータの利用や臨床研究に係る研究申請については、本年 4 月から当法人の倫理委員会が審査します。なお、3 月までは移行期のため、データ試料管理委員会が審査します。

※ 詳細は、当法人ホームページ〉医師の方へ〉患者主治医の方へ〉研究事業 をご参照ください。

16 「造血幹細胞移植推進事業フォーラム」開催のご案内〈医師の方へ〉

本年 3 月 3 日（木）～ 5 日（土）名古屋国際会議場で開催される第 38 回日本造血細胞移植学会総会の会期中、「造血幹細胞移植推進事業フォーラム」が開催されます（JSHCT 主催）。4 月からスタートする新たな移植施設認定に関する報告も予定されています。

詳しくは JSHCT ホームページをご確認ください。（http://www.jshct.com/pdf/20160215_forum.pdf）

■ 開催概要

日時：平成 28 年 3 月 5 日（土）10:00～11:30

会場：名古屋国際会議場 白鳥ホール 南 第 3 会場（4 号館 1F）



17 開始シート送付省略対象ドナーの条件拡大

コーディネート期間短縮が喫緊の課題となっていることから、期間短縮の施策は可能な限り速やかに進めることになりました。その一環として、期間短縮とドナー負担軽減のため、以下のとおり開始シート送付省略となる対象ドナーの条件拡大を行いました。

■変更点

省略対象ドナーの条件

(変更前) 前回コーディネート終了から 180 日以内に開始したドナー

↓

(変更後) 前回コーディネート終了から 1 年以内に開始したドナー

■運用方法

- ・ 前回初期担当で終了したドナーは、初期から電話でドナーの状況を確認する。
- ・ 前回地区事務局で終了したドナーは、地区から電話でドナーの状況を確認する。

■運用開始

- ・ 2016 年 1 月 28 日 (木) 開始ドナーから実施済み

18 採取終了後のドナーあてお礼状の変更について

提供 1 年間の保留解除後のドナー登録は、ご本人からの申し出がない限り「継続」とすることについてマンスリー 1 月号でお知らせしました。これに伴い、フォローアップ終了後にドナーへ送付するお礼状の文言を修正しました。

■変更点

お礼状下欄の「今後のドナー登録について」の記載内容を下記のとおり変更します。

(変更前) 保留期限がまいりましたら、ドナー登録のご意向をお伺いするため当法人よりご連絡させていただきます。

↓

(変更後) 保留期限がまいりましたら、とくにお申し出がない限り、今後のドナー登録は「継続」とさせていただきます旨をご連絡します。(※別紙見本参照)

■運用開始

2016 年 1 月 19 日 (火) ドナーへ送付分から実施済み

19 平成 28 年度調整医師委嘱更新手続きについて (再掲) <調整医師の方へ>

委嘱更新の書類を 1 月末に郵送しました。お手続きのうえ、2 月 29 日 (月) までにドナーコーディネート部までご返送くださいますようお願いいたします。なお、これまで 2 年毎に委嘱更新していましたが、平成 28 年度より委嘱期間を 1 年とし、とくにお申し出のない限り自動更新とさせていただきます。(異動等の場合はドナーコーディネート部または地区事務局へお早めにご連絡ください)

また、委嘱更新の書類に業務委託契約制度への協力をお願い文書を同封しました。ご検討のほど何卒よろしく申し上げます。